

平成25年9月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年11月15日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アルファクス・フード・システム
コード番号 3814 URL <http://www.afs.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田村 隆盛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長

(氏名) 河原 克樹

TEL 0836-39-5151

定時株主総会開催予定日 平成25年12月26日

有価証券報告書提出予定日 平成25年12月26日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期の業績(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期	1,838	△0.9	△34	—	△46	—	△39	—
24年9月期	1,856	△23.9	23	△13.3	10	△22.8	△17	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年9月期	△17.89	—	△5.6	△2.7	△1.9
24年9月期	△8.20	—	△2.3	0.6	1.3

(参考) 持分法投資損益 25年9月期 —百万円 24年9月期 —百万円

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年9月期	1,673	681	40.7	312.35
24年9月期	1,756	720	41.0	330.21

(参考) 自己資本 25年9月期 681百万円 24年9月期 720百万円

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年9月期	77	△108	△47	421
24年9月期	15	△19	△141	500

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当 率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
25年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00	—	54.6	—

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。平成26年9月期(予想)における配当金につきましては、当該株式分割の影響を考慮した額を記載しております。

3. 平成26年9月期の業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	930	2.5	10	—	3	—	1	—	0.46
通期	2,200	19.6	90	—	75	—	40	—	18.33

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数(自己株式を除く)により算定しております。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期	2,513,800 株	24年9月期	2,513,800 株
② 期末自己株式数	25年9月期	331,500 株	24年9月期	331,500 株
③ 期中平均株式数	25年9月期	2,182,300 株	24年9月期	2,192,900 株

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】2ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	6
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	11
(1) 会社の経営の基本方針	11
(2) 目標とする経営指標	11
(3) 中長期的な会社の経営戦略	11
(4) 会社の対処すべき課題	11
(5) その他、会社の経営上重要な事項	12
4. 財務諸表	13
(1) 貸借対照表	13
(2) 損益計算書	15
(3) 株主資本等変動計算書	17
(4) キャッシュ・フロー計算書	19
(5) 財務諸表に関する注記事項	20
(継続企業の前提に関する注記)	20
(重要な会計方針)	20
(会計方針の変更)	21
(未適用の会計基準等)	21
(表示方法の変更)	21
(会計上の見積りの変更)	21
(追加情報)	21
(貸借対照表関係)	21
(損益計算書関係)	21
(株主資本等変動計算書関係)	22
(キャッシュ・フロー計算書関係)	23
(リース取引関係)	24
(金融商品関係)	25
(有価証券関係)	25
(デリバティブ取引関係)	25
(持分法損益等)	25
(関連当事者情報)	26
(税効果会計関係)	28
(退職給付関係)	29
(ストック・オプション等関係)	29
(企業結合等関係)	30
(資産除去債務関係)	30
(賃貸等不動産関係)	30
(セグメント情報等)	30
(1株当たり情報)	30
(重要な後発事象)	31
5. その他	31
(1) 役員の異動	31
(2) その他	31

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

① 当期の経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、政府による経済政策及び日銀の金融政策に対する期待感から企業業績が緩やかながらも改善に向かい始めている一方で、円安による物価上昇、新興国及び中国経済の減速懸念等により国内景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社の主要販売先である外食産業におきましては、引き続き消費者の節約志向は強く、顧客獲得競争は更に激しさを増しております。また、円安による輸入食材価格の高騰等により、当社の事業領域において厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、大手外食チェーンを中心に、従来からのASPサービス、オーダーエントリーシステム及びテーブルオーダー等のシステム機器を中心とした販売活動に加え、生活防衛意識の高まりにより、消費者志向が変化していることへ対応するべく顧客情報サービスに注力してまいりました。

その結果、ASPサービス事業及びシステム機器事業の新規受注を獲得したものの、一部受注の長期化及び月額サービスへの寄与に一定の時間を要すること等により、売上高は1,838,901千円（前年同期比0.9%減）となりました。利益面に関しましても、受注の長期化及びデータセンターの強化等により、営業損失34,143千円（前年同期は営業利益23,942千円）、経常損失46,831千円（前年同期は経常利益10,389千円）、当期純損失39,037千円（前年同期は当期純損失17,975千円）となりました。

事業別売上高は、次のとおりです。

当社は、ASPサービス事業を単一セグメントとしておりますが、ASPサービス事業を核として、顧客である飲食店舗にASPサービス事業、システム機器事業、周辺サービス事業を一体として提供しております。

事業別	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)		当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)	金額(千円)	前年同期比(%)
ASPサービス事業	1,087,481	110.2	1,049,662	96.5
システム機器事業	462,003	39.0	536,616	116.1
周辺サービス事業	306,743	114.3	252,623	82.4
合計	1,856,228	76.1	1,838,901	99.1

(ASPサービス事業)

当事業におきましては、月額サービスの新規顧客獲得及び既存顧客へのサービス拡大に注力した結果、新規受注等の獲得等がありました。しかしながら、月額サービスの本格的な回復とはならず、売上高は1,049,662千円（前年同期比3.5%減）となりました。月額サービス料は12ヶ月累計で881,307千円（前年同期比1.8%増）と推移しました。

(システム機器事業)

当事業におきましては、新規出店及び一部受注の長期化等があったため、売上高は536,616千円（前年同期比16.1%増）となりました。

(周辺サービス事業)

当事業におきましては、サプライ品、機器修理及び他社商品の販売等を行った結果、売上高は252,623千円（前年同期比17.6%減）となりました。

② 次期の見通し

平成26年9月期の見通しにつきましては、長引く円高や世界景気の先行き懸念等により企業収益の回復は不透明であり、依然として個人消費の低迷は継続するものと予想されます。そのような環境の中で、当社はコスト管理に注力する大手チェーンを中心に「ロス管理」を特徴とした「ASP基幹業務システム」とPOSシステム、新型ハンディターミナル及びテーブルオーダーシステムを中心としたトータル提案をさらに強化してまいります。

通期の業績見通しにつきましては、主として一部前期よりずれ込んだシステム機器受注の獲得と、同システム機器提供によるASPサービスの受注を勘案し、売上高2,200,000千円（前期比19.6%増）、営業利益90,000千円、経常利益75,000千円、当期純利益40,000千円を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の状況

当事業年度における資産につきましては、流動資産が1,203,277千円（前年同期比74,744千円減）となりました。これは主に現金及び預金72,842千円の減少、売掛金42,884千円の減少、商品31,803千円の増加によるものです。固定資産は466,898千円（前年同期比7,251千円減）となりました。これは主に建設仮勘定25,080千円及びソフトウェア51,346千円の増加があった一方で、長期未収入金30,141千円の減少、有形固定資産における減価償却費61,820千円によるものです。

負債につきましては、流動負債が873,317千円（前年同期比35,658千円減）となりました。これは主に短期借入金50,000千円及び1年以内償還社債14,000千円の増加があった一方で、1年以内返済長期借入金100,000千円の減少によるものです。

純資産につきましては、681,640千円（前年同期比38,975千円減）となりました。これは当期純損失39,037千円の計上によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により得られた資金や、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローにより使用した資金により前事業年度末に比べ78,842千円減少し、当事業年度末には421,377千円となりました。

また、当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果得られた資金は、77,305千円（前年同期は得られた資金15,579千円）となりました。これは主に、減価償却費86,383千円の計上及び売上債権62,405千円の減少があった一方で、税引前当期純損失46,831千円の計上及びたな卸資産33,942千円の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は、108,224千円（前年同期は使用した資金19,018千円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出26,446千円及び無形固定資産の取得による支出75,909千円による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は、47,923千円（前年同期は使用した資金141,212千円）となりました。これは主に、短期借入れによる収入50,000千円（純額）があった一方で、長期借入金の返済による支出100,000千円があったことによる資金の減少によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成24年9月期	平成25年9月期
自己資本比率 (%)	41.0	40.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	94.4	97.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	5,333.9	1,014.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ	1.5	8.0

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー/利払い金

(注1) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

(注2) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

(注3) 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、安定的かつ継続的な株主への利益還元を経営の重要課題として考えるとともに、当社サービスの外食産業におけるシェアを拡大すること及び財務体質の強化のための内部留保充実に努めてまいります。その上で業績に応じた株主への利益還元を実施していく方針であります。

当期の配当につきましては、当期は純損失が計上されていることから、期末配当につきましても、誠に遺憾ながら見送らせていただくことといたしました。

次期に係る剰余金の配当予想は、現時点で想定しうる事象等を勘案し、業績予想を下回らない業績の達成を前提として、期末配当のみ1株当たり10円（株式分割前換算1,000円）とさせていただく見込みであります。なお、中間配当につきましては、第2四半期（累計）の業績予想を勘案し、行わない予定です。

(4) 事業等のリスク

以下には、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また当社ではコントロールできない外部要因や必ずしも重要なリスクとは考えていない事項についても、投資判断の上で、あるいは当社の事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。

当社はこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、その発生の予防及び発生時の対応に努力する方針ですが、当社の経営状況及び将来の事業についての判断、本株式の投資判断については、本項及び本書中の本項以外の記載事項を慎重に検討したうえで投資家及び株主ご自身が行っていただくようお願いいたします。

1. 当社事業に関するリスクについて

(1) A S Pサービス事業における配信機能の停止について

当社は山口県宇部市にある自社所有のデータセンターを活用した外食企業向けのA S Pサービスが主な事業となっております。その性格上、社内外における様々なネットワーク・システム及びコンピュータ・システムに依存しております。

データセンターにおいては、セキュリティを重視したシステム構成、ネットワークの負荷を分散する装置及び24時間365日体制での監視等に取り組んでおり安全性を最重視しておりますが、アクセスの急激な増加等から負荷が一時的に増大することによる当社サーバーの動作不能、火災・震災・台風等による自然災害のための予期せぬ停電等から発生するシステム及びサーバーの障害が生じた場合、当社のサービスを停止せざるを得ない状況が起こる可能性があります。この場合、当社のシステム管理体制への信用不信を招き当社の業績に影響を与える可能性があります。

(2) 競争の激化について

当社の展開する外食産業向けA S Pサービス事業及びシステム機器事業に関して、競合他社は数社認識しております。当社は創業以来、外食産業に特化することにより様々なサービスにおいて差別化を図り競争力をつけてまいりました。しかし、価格、機能及び新商品企画の側面等において当社が顧客の要求を満たすことが出来ない場合やそれ以外の何らかの要因により当社の競争力が低下した場合は当社の業績に影響を与える可能性があります。

(3) 当社の技術及びシステムの陳腐化について

I T技術の進歩は、ハードウェア、ソフトウェア両面において急速な発展をしております。また、外食産業の多様化により提供サービスの変化等も予想されます。当社は、データセンター、POSシステム及びオーダーエントリーシステム等において新技術の採用または多様化する外食産業を先取る形での提供サービスの企画等を行っておりますが、このような進歩や変化に対応できなくなった場合、当社システム及びサービスの陳腐化を招き当社の業績に影響を与える可能性があります。

(4) 人為的顧客データの流出について

当社では勤怠管理サービスを提供するため顧客企業の従業員に関する個人情報を保有しております。一方、平成17年4月1日に施行された「個人情報の保護に関する法律」（個人情報保護法）にともない、当社では情報を取り扱う役職員を限定し、指紋認証、パスワード管理等を行いソフト、ハード面から個人情報の保護体制を構築しております。しかし、書類の盗難及びネットワークへの不正侵入等による個人情報漏洩の可能性は否定できず、万が一このような事態が発生した場合は、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(5) 特定の仕入先への依存について

当社は、自社商品であるPOSシステム及びオーダーエントリーシステムの製造を株式会社ファインフィットデザインに委託しております。当社の仕入高に占める比率は、43.0%となっております。

同社とは取引開始以来、良好な関係を継続しており今後も同取引を継続・拡大していく方針であります。しかし、自然災害や同社内における事故等の発生、また同社の経営方針の変更等により当社の販売計画に見合った形での仕入が困難となった場合は、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(6) 在庫・出荷体制について

当社は、大型チェーン等も顧客としているためシステム機器の受注台数及び金額が大きなものとなっております。現時点において在庫仕入のための資金や大量出荷に備えた人員体制等には問題はなく、また今後の展開の上でも十分な体制を整えていく方針であります。

しかし、計画的な資金調達及び出荷体制の整備が行なえず顧客の納期に支障をきたした場合は、損害賠償訴訟等の発生は否定できず、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(7) システム機器の品質について

当社は、自社商品であるPOSシステム及びオーダーエントリーシステムの販売において、顧客企業への導入前の動作確認等の品質管理に重点をしております。しかし、予期せぬ不具合等が発生した場合は、顧客からの損害賠償訴訟等の発生は否定できず、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(8) 顧客のシステム投資計画について

当社の主たる顧客は外食産業であり、同産業の季節要因等によるシステム投資計画によって当社のシステム導入スケジュールが左右される傾向にあります。その結果、売上高に影響を及ぼし、固定費を補えない形で利益に影響を与える可能性があります。

(9) 自然災害、事故等について

当社は、ASPサービスを展開するデータセンターを山口県宇部市に設置し運用しており、また、バックアップ等も同施設内に設置しております。同地域に地震、台風及び津波等の自然災害や事故やテロ等により設備の損壊や電力の供給等に不測の事態が発生した場合は、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(10) 売掛債権の回収について

当社は、多くの顧客に対し製品やサービスを提供しておりますが、取引の多くについては代金回収が事後となるため、当社が債権を有する顧客の財政状態悪化により、債権の回収遅延や回収不能をもたらし、当社の業績に影響を与える可能性があります。

2. 当社組織に関するリスクについて

(1) 特定人物への依存について

田村隆盛氏は、当社設立以来の事業推進者であり当社の経営方針、経営戦略の決定、商品企画及び管理業務等の各方面において重要な役割を果たしております。

当社では、業務分掌の分散を図る等田村隆盛氏に依存しない組織体制の整備を進めてまいりました。現状において田村隆盛氏が当社業務から離脱することは想定しておりませんが何らかの理由により田村隆盛氏が当社における業務遂行を継続することが困難となった場合、当社の業績及び今後の事業展開に影響を与える可能性があります。

(2) 人材の獲得・育成について

当社が今後成長していくためには、外食業界に精通したシステム営業、データセンターの企画・運営及び組織拡大に対応できる管理担当など、様々な分野での優秀な人材の獲得及び育成が重要になってまいります。当社では優秀な人材の獲得及び育成に努めておりますが、適切な人材の獲得、育成及び配置が円滑に行えない場合は業績に影響を与える可能性があります。

(3) 小規模組織であることについて

当社は、平成25年9月30日現在において取締役5名、監査役3名（うち非常勤2名）及び従業員105名と小規模な組織であり、内部管理体制もこれに応じたものになっております。今後、事業拡大に伴い積極的な人材獲得及び育成に努め、内部管理体制の一層の強化を図る方針であります。しかし、優秀な人材の獲得及び育成が円滑に進まない場合は十分な組織対応ができず、効率的な事業運営に支障をきたす可能性があります。また、各部署において短期間のうちに相当数の社員が退職した場合も事業運営に支障をきたす可能性があります。

3. その他リスクについて

(1) 顧客対象が外食産業に特化していることについて

当社のASPサービス及び商品は外食産業に特化したものであり、売上高に占める割合も外食産業に集中しております。外食産業は、BSE、鳥インフルエンザ等による食材調達の問題及び食中毒等による衛生上の問題等、食の安全にかかる不測の事態により業績に多大な影響を受けることがあります。外食産業の業績が低迷する事態においては、情報システム投資等も抑制される傾向にあり、そのような事態が発生した場合は当社の業績に影響を与える可能性があります。

(2) 知的財産について

当社は、自社企画した商品の名称及びサービスの名称の一部について商標登録を行なっております。一方、独自に企画した「オーダーショット」に関して平成19年10月に特許権を取得しております。

なお、当社は第三者の知的財産権を侵害しないよう努めており現時点において侵害していないと認識しております。しかし、将来において第三者の知的財産権への侵害が生じてしまう可能性は排除できません。

当社が、自社企画商品及びサービスを提供する上で、第三者の知的財産権を侵害していることが発覚した場合、当社への損害賠償請求、信用の低下及びブランド力の劣化等により、当社の事業運営及び業績に影響を与える可能性があります。

(3) 配当政策について

当社は、安定的かつ継続的な配当による株主に対する利益還元を経営の重要課題として考えておりますが、当社サービスの外食産業におけるシェアを拡大すること及び財務体質の強化のための内部留保の充実に努めることを勘案し、業績に応じた配当を実施していく方針であります。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 企業集団の状況

当社は、「食文化の発展に情報システムで貢献する」ことを事業ポリシーとして、外食業界に特化した基幹業務システムのASP（注1）による提供から、飲食店店舗にて利用するPOSシステム（注2）、オーダーエントリーシステム（注3）の自社企画商品の販売及び周辺サービスの提供までをワンストップで行っております。

外食業界では、各店舗単位に食材から料理を作るという製造業の側面を持っているにもかかわらず、その個別製造原価、ロス分析法の管理体系が確立されていませんでした。当社は外食企業に対し、食材原価ロス、人件費の無駄等「人・物・金」といった経営コストのロスを徹底追及する「飲食店経営管理システム」（注4）を核とした各種システムの提供を行っております。

当社の事業は、同システムをインターネット経由で提供するASPサービス事業、当社企画のオーダーエントリーシステム（「オーダーショット」）やPOSシステム等のハード機器の販売を行うシステム機器事業、その他他社機器及びサプライ品等を販売する周辺サービス事業からなっております。

（注1）ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）

アプリケーションソフトの期間貸し。ASP利用者であるユーザーが、インターネットを利用してASPサービス提供企業が所有するサーバーにあるアプリケーションソフトウェアの機能を利用できるサービス。ユーザーはASPを利用することで、高価なクライアントサーバーを自社で開発する初期費用と時間が節約され、恒常的には、システムのバージョンアップ費用、システムの保守・メンテナンス費用、店舗における各種データ入力の作業負担、本社におけるデータの加工・分析の作業負担が大幅に軽減されます。

（注2）POSシステム（Point of Sales System「販売時点情報管理システム」）

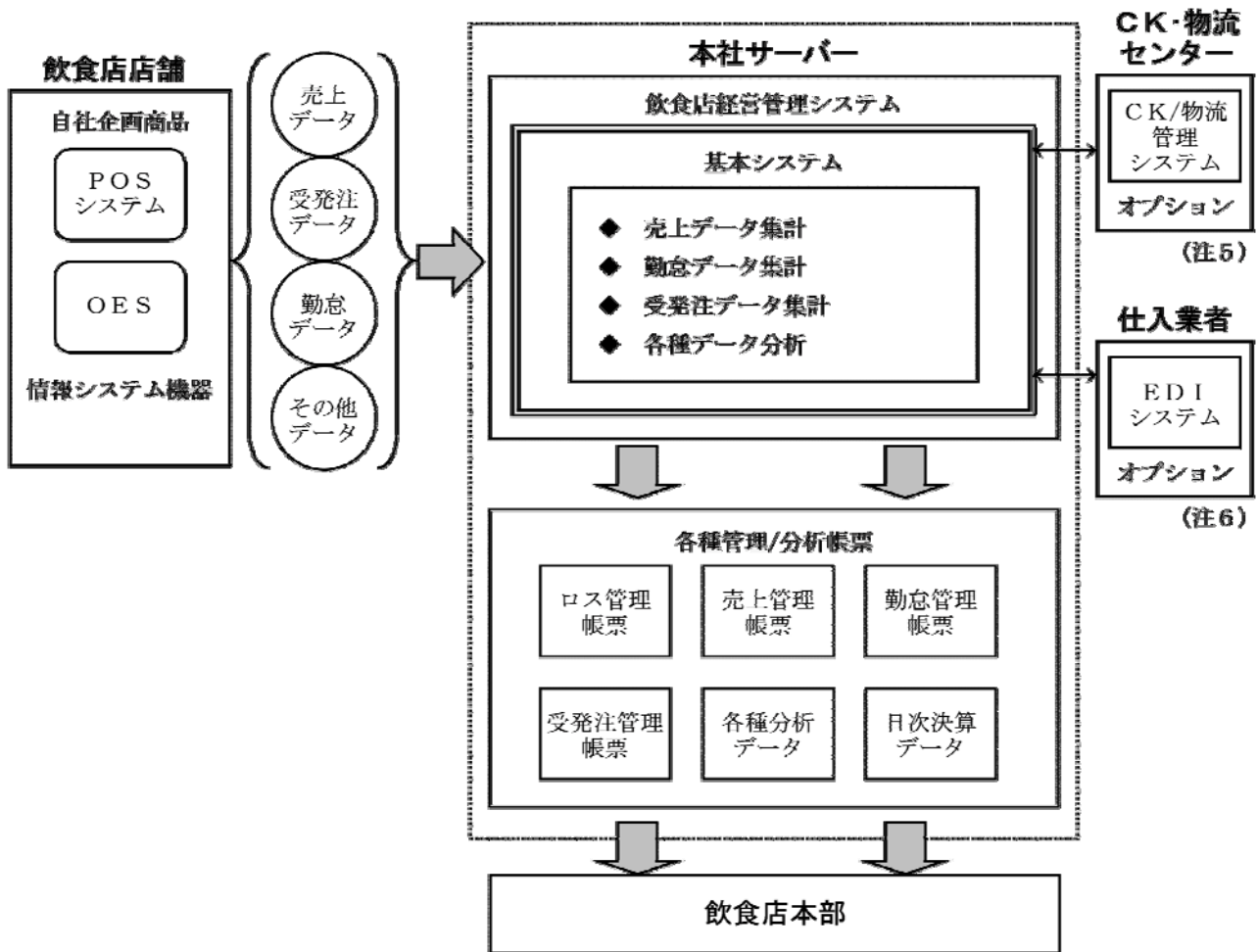
店舗の売上データを受け渡す機器として必要不可欠なものであります。当社は、これまで多くの国内主要POSシステムの通信処理や、フォーマットを研究し基幹業務処理に応用してきた過程で従来POSの非効率性（外食アンマッチ）を改善し、コスト削減と実務向上を目指して、外食業界専用自社で企画したPOSシステムの販売を行っております。

（注3）オーダーエントリーシステム（略称「OES」）

飲食店にて、お客からの注文を入力し、注文内容を厨房へ伝え、会計時にはPOSへ伝送することで飲食代金を表示できるようにするシステム。当社は、独自POSシステムを成功させたノウハウを基にオーダーエントリーシステム（当社ブランド名「オーダーショット」）を自社で企画し、平成16年7月に発売を開始致しました。「オーダーショット」のハンディターミナルは、外食店舗のあらゆる主要業務（通常のオーダー・テーブルオーダー・発注・検品・棚卸・アンケート集計）を、1台でこなせる高性能マルチ端末であり、従来機器のようにオーダー端末のみでしか利用が出来ない端末と比較して、機器を別々に購入する必要がなく、業務の大幅効率アップなど、コストパフォーマンスの高い端末であります。

（注4）飲食店経営管理システム

当社が構築したシステムで、売上管理・勤怠管理・在庫分析等、飲食店の経営コストの無駄を徹底排除し、効率的な運営と飲食店経営者の的確な経営判断をサポートするシステム。当社は、平成10年に当システムのソフトウェアの提供をパッケージソフトの販売からASPによる提供へと変更いたしました。



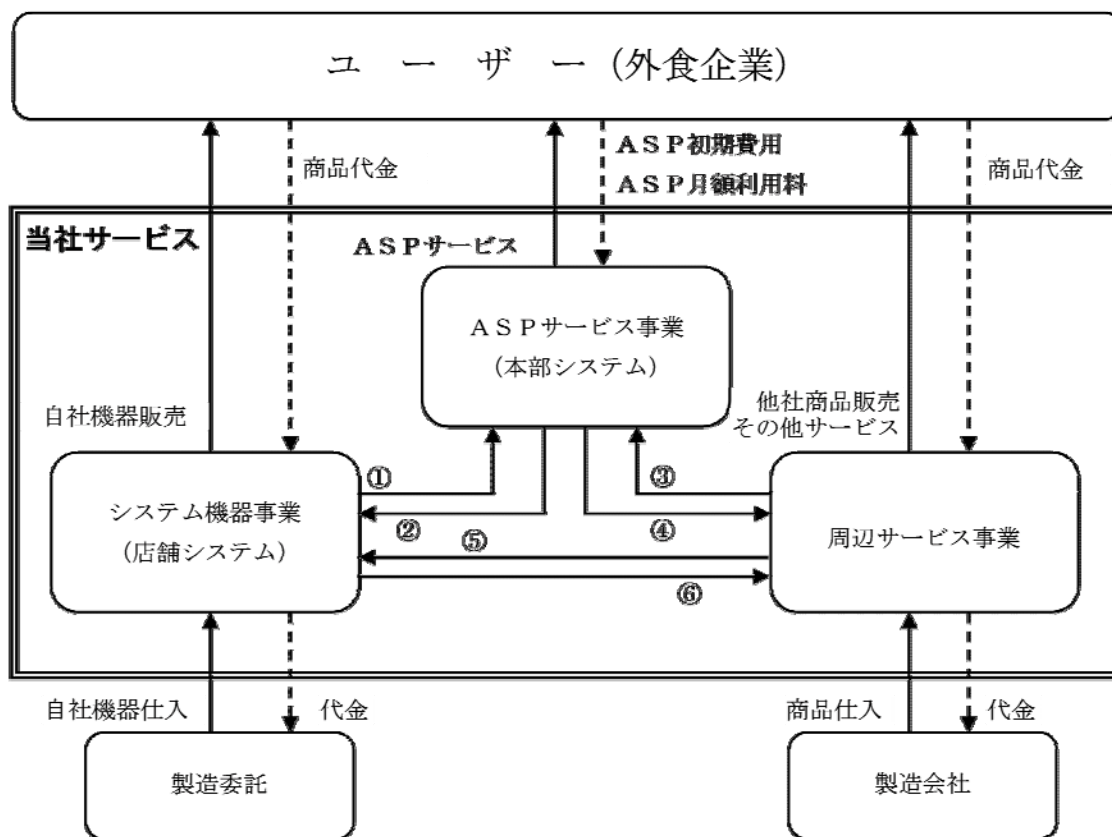
(注5) CK (セントラル キッチン)

食材の第1次加工を行う集中調理工場のこと。学校・病院などの集団給食用や、チェーン展開する外食企業が、コスト削減や味の均一化、食品衛生管理の徹底などを目的として建設する施設であります。

(注6) EDI (Electronic Data Interchange「電子データ交換」)

企業間で、受発注や決済、見積など商品取引のための文書をコンピューターネットワークを通じてやり取りすること。あるいはこうした受発注情報を使って企業間の取引を行うことをいいます。

[当社事業系統図]



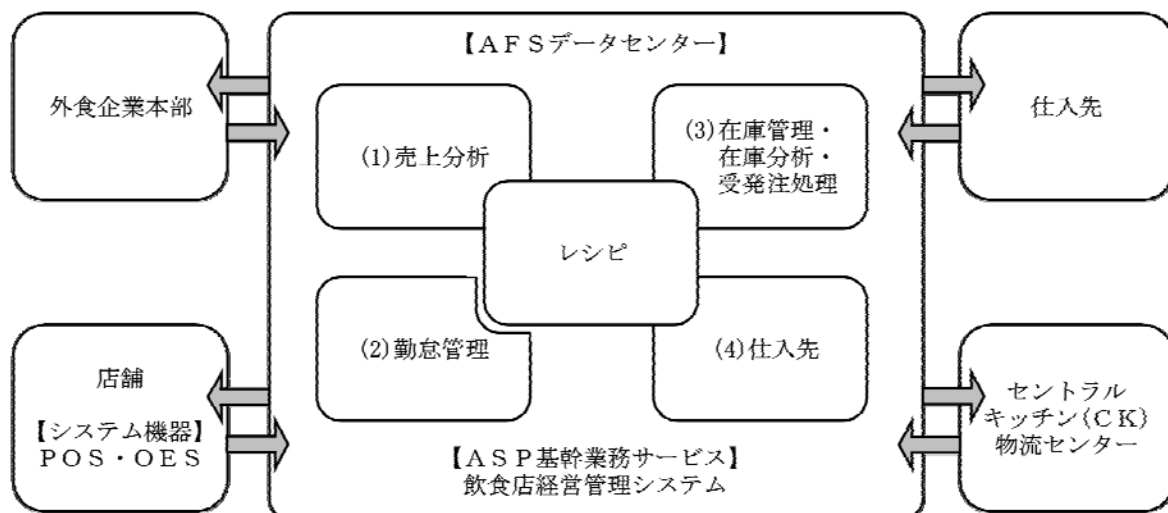
- ① システム機器に蓄積されたデータを有効活用するためのASPサービスを導入
- ② ASPサービスを効率的に活用・運用するためのシステム機器導入
- ③ 他社製システム機器に蓄積されたデータを有効活用するためのASPサービスを導入
- ④ ASPサービスを効率的に活用・運用するための他社製オンライン端末を導入
- ⑤ システム機器を有効活用するためのオプション機器導入
- ⑥ システム機器のサプライ用品の販売

1. ASPサービス事業

当社のASPサービス事業では、顧客の外食企業に対して(1)売上分析システム(2)勤怠管理システム(3)在庫管理、在庫分析、受発注処理、(4)セントラルキッチン等の基幹業務システムをASPで提供しております。顧客の外食企業本社やエリア本部は、インターネット端末で上記(1)～(4)のシステムを利用し、各店舗から送信された諸データを当社独自の帳票に加工・分析されたデータとして閲覧し経営判断に用いることができます。

特に当社のサービスの特長である「料理レシピデータによる在庫管理分析」(各料理のレシピを事前に登録してメニュー売上に連動させて分解することで、食材の理論在庫が把握でき、店舗ごとに理論在庫と実在庫の差異を分析する仕組み)は、調理段階のロスや、食材の過剰発注(過剰在庫)、在庫切れによるチャンスロスを未然に防ぎ、店舗単位に物理的な食材ロスを徹底的に排除・削減することができます。

当社のASPサービスを図にすると以下のようになります。



(注1) AFSデータセンター

外食企業の店舗や本部等で発生する売上、勤怠、受発注等の各種データを集信します。そのデータを集計、分析し、Web上で帳票やデータにより提供します。

2. システム機器事業

当社のシステム機器事業は、外食企業の本部情報分析精度を高める為に重要な情報収集端末である「POSシステム」及び「オーダーエントリーシステム」の自社企画商品の販売を行っております。

3. 周辺サービス事業

周辺サービス事業では、外食企業関連商品のワンストップサービスの一環として、Webサービスによる外食関連情報の発信や、顧客誘致及び事務管理の簡素化のためのポイントカード端末やクレジット端末・自動釣銭機端末、キャッシュカウントマシン等と他社製品、及びPOSシステム、オーダーエントリーシステムに係る各消耗品の販売を行っております。

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

平成5年に当社を設立して以来一貫して、外食産業専門の情報システム企業として業界に特化した商品企画やサービス提供を行っており、商品の企画・メンテナンス、データセンターの運用・保守・監視、営業・導入サポート等コアになる業務については、すべて自社内で対応しております。また、外食産業における情報システムの両輪である、「本部側基幹システム」と「店舗システム機器」の両方をラインアップし、外食企業の業務全体をカバーするソリューションを提供しております。長年外食産業に特化したことにより蓄積したノウハウや商品力、人材資源を活かして、付加価値の高い企画商品／サービスの提供を推進し、外食産業全体の業務効率化・コストダウンに貢献していく方針であります。

(2) 目標とする経営指標

当社の収益は、ASPサービスの基幹業務システム使用許諾料、基幹業務システム月額サービス料及びシステム機器販売等が主なものであり、特にストック型の収益である基幹業務システム月額サービス料の積み上げに注力し、売上高経常利益率を会社の重要な経営指標としております。

当社の事業規模は翌期以降も拡大する計画であります。データセンターを中心とした管理コストのコントロール及び効率化を図り、管理コストを事業規模の拡大以下にすることを目標とし、売上高営業利益率10%の達成を目指してまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

外食産業は、高付加価値や健康志向等の消費者意識の変化や高齢化社会に対応した業態やメニュー開発及び食の安全・安心への取り組み等の対応を行いながら、競合企業や異業種との競争に負けない企業体制を構築する必要があり、これまでの売上拡大路線から「ロスを排除」した低コスト・高収益化への取り組みが必要であると考えられます。外食産業は、小売・流通業またはサービス業に位置づけられておりますが、「形を変え付加価値をつけて商品を提供する」製造業の一面も併せ持っており、人件費（labor cost）管理に加え食材費（food cost）のロス管理（業界内ではF/L管理と呼ばれる）の2点を同時に行う必要があります。精度の高い管理は手作業では困難であり、システム化を行うためには莫大な投資が必要になるため、一部の大手チェーンを除き根本的な対策を講じることが困難でありました。競争が激化する中、このような外食産業独自の管理手法に対応するとともに、初期投資を抑えた導入ができる業界専門のシステムが求められる時代になってきたと考えられます。

①ASPサービス事業

上記の状況を踏まえ、従来通り直接販売を中心としながら、コンサルタント会社や商社系物流会社等外食業界関連企業とのアライアンスを強化し、普及のスピードを速める予定です。また、従来のソフトウェア資産を生かしASPに移植することで、外食産業だけではなく「給食」や「中食」といった「食」業界全般をカバーするシステムを提供し、事業を拡大する方針であります。

②システム機器事業

当社の成長性確保と規模の追求のため、直販営業に加え代理店による販売推進を行い、積極的にシェアを獲得する方針です。また、全社的な入れ換えが必要なASPサービス事業と比べ、1店舗単位での導入が可能な商品であるため、商談の増加が可能であり、「オーダーショット」でターゲットとする企業との取引間口開設を行い、その後当社収益の基盤であるASPサービス事業の受注に繋げて行く戦略を展開してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

当社の顧客層である外食産業におきましては、マーケット全体の市場規模は数年間横ばいが続いているものの、売上上位企業の業界内シェアは年々増加の傾向にあります。同時に大手外食企業間の競争は激化しており、企業にとっては、収益力の向上、コスト競争力の強化、トレンドを迅速かつ的確につかむ力が成長のカギとなってきております。現在大手外食企業が抱える課題の解決のために、情報システムの重要性は認識されつつあり、その投資意欲は高まりつつあると思われまます。

このような環境下で、当社が更なる成長を実現するため、以下の事項を課題として認識し、対応してまいります。

①サポート体制について

当社は大手外食企業に特化した店舗運営管理システムをASP型で提供しております。大手外食企業の受注に際しては、店舗運営管理システムの品質・価格競争力以外に同サービスを安定的かつ長期的に提供できるかどうか成約の重要なファクターとなっております。

これまで、データセンターのサポート人員の教育を推進してまいりましたが、大手外食企業の受注増加等に対して、人材の確保、社内及び社外研修制度等を充実させ安定的なサポート体制の構築を図ってまいります。

②出荷体制について

大手外食企業の受注に際しては、POSシステム及びオーダーエントリーシステム機器の出荷体制、品質管理を強化することが課題となっております。

当社では、出荷及び品質管理部門の人員を強化しており、大手外食企業の受注増加に備え、増員及び運営体制の整備に努め、安定的な出荷体制の構築を図ってまいります。

③販売提携及び代理店契約について

これまでは、大手外食企業を中心とした販売活動を直接販売体制のみで行ってまいりました。当社といたしましては、大手外食企業を中心とした直接販売体制に加え、外食企業の顧客を有する商社、SI業者及び食品メーカー等との連携強化、販売提携及び代理店政策を行い、各々の特徴を活かしたサービス提供力を高め、販売網の拡大及び収益構造の多様化及び安定性確保を図ってまいります。

④個人情報等の管理体制について

当社では、ASPサービスの運営を行うにあたって、個人情報の管理体制が重要なものであると考えております。現時点においては、個人情報の取扱いを行う部門及び人員の制限、セキュリティカード認証及び監視カメラの設置による情報管理等を行っており、ソフト・ハード両面からの強化に努めてまいります。平成22年9月にデータセンターでISO27001を取得いたしました。

⑤経営管理体制の強化

当社は現在、小規模組織ということもあり、管理体制はそれに対応したものになっております。しかし今後は、顧客情報及び社内情報等の情報管理体制及び適切な情報開示を行なうための管理体制をさらに強化していく所存でございます。また、現在使用している社内管理システムの強化を図り情報の有効活用及び管理を徹底してまいります。また、コンプライアンス体制及び様々なものにおいてリスクマネジメント体制を充実してまいります。

(5) その他、会社の経営上重要な事項

該当事項はございません。

4. 財務諸表
 (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	522,720	449,877
売掛金	282,952	240,067
商品	414,914	446,717
貯蔵品	14,895	15,337
前払費用	24,433	22,200
繰延税金資産	16,776	30,265
未収入金	2,742	625
その他	2,161	1,110
貸倒引当金	△3,575	△2,925
流動資産合計	1,278,021	1,203,277
固定資産		
有形固定資産		
建物	50,985	51,334
減価償却累計額	△38,745	△40,721
建物（純額）	12,240	10,612
車両運搬具	2,296	2,296
減価償却累計額	△2,296	△2,296
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	739,790	742,506
減価償却累計額	△555,448	△615,292
工具、器具及び備品（純額）	184,342	127,213
土地	20,429	20,429
建設仮勘定	14,123	39,203
有形固定資産合計	231,135	197,458
無形固定資産		
ソフトウェア	28,765	80,112
電話加入権	2,445	2,445
無形固定資産合計	31,211	82,557
投資その他の資産		
出資金	145	151
長期前払費用	103,564	101,883
敷金及び保証金	20,138	20,012
繰延税金資産	27,730	24,367
長期未収入金	82,446	52,305
その他	14,420	14,768
貸倒引当金	△36,644	△26,608
投資その他の資産合計	211,803	186,881
固定資産合計	474,149	466,898
繰延資産		
社債発行費	4,460	3,459
繰延資産合計	4,460	3,459
資産合計	1,756,631	1,673,635

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	64,179	93,843
短期借入金	※1 561,000	※1 611,000
1年内償還予定の社債	60,000	74,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	—
未払金	21,899	12,351
未払費用	9,181	9,850
未払法人税等	18,098	2,812
預り金	13,793	9,617
前受金	36,978	42,110
賞与引当金	14,417	14,962
その他	9,428	2,768
流動負債合計	908,976	873,317
固定負債		
社債	110,000	99,000
退職給付引当金	17,039	19,677
固定負債合計	127,039	118,677
負債合計	1,036,016	991,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	537,862	537,862
資本剰余金		
資本準備金	143,599	143,599
資本剰余金合計	143,599	143,599
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	287,460	248,423
利益剰余金合計	287,460	248,423
自己株式	△248,239	△248,239
株主資本合計	720,682	681,645
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△66	△5
評価・換算差額等合計	△66	△5
純資産合計	720,615	681,640
負債純資産合計	1,756,631	1,673,635

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
売上高		
ASPサービス事業売上高	1,087,481	1,049,662
システム機器事業売上高	462,003	536,616
周辺サービス事業売上高	306,743	252,623
売上高合計	1,856,228	1,838,901
売上原価		
ASPサービス事業売上原価	577,217	602,535
システム機器事業売上原価	427,288	460,939
周辺サービス事業売上原価	253,665	223,101
売上原価合計	1,258,172	1,286,576
売上総利益	598,055	552,324
販売費及び一般管理費		
役員報酬	104,525	107,527
給料及び手当	190,079	199,215
賞与	12,013	15,181
法定福利費	36,212	39,061
賞与引当金繰入額	6,820	6,919
退職給付費用	8,109	6,704
旅費及び交通費	26,869	26,660
地代家賃	37,272	57,017
販売促進費	19,306	21,483
減価償却費	6,734	3,314
貸倒引当金繰入額	13,994	4,316
その他	112,171	99,066
販売費及び一般管理費合計	574,112	586,467
営業利益又は営業損失(△)	23,942	△34,143
営業外収益		
受取利息及び配当金	182	96
その他	662	527
営業外収益合計	844	624
営業外費用		
支払利息	8,427	8,095
社債利息	1,889	1,546
社債発行費償却	1,699	1,776
支払保証料	2,381	1,893
営業外費用合計	14,398	13,312
経常利益又は経常損失(△)	10,389	△46,831
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	10,389	△46,831
法人税、住民税及び事業税	16,580	2,372
法人税等調整額	11,784	△10,166
法人税等合計	28,365	△7,794
当期純損失(△)	△17,975	△39,037

売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)		当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 器材費		546,442	43.4	556,018	43.2
II 人件費		235,693	18.7	247,884	19.3
III 外注費		230,192	18.3	245,119	19.0
IV 経費	※3	249,583	19.8	239,294	18.6
V 他勘定振替高	※4	△3,739	△0.2	△1,739	△0.1
当期総製造費用		1,258,172	100.0	1,286,576	100.0
計		1,258,172		1,286,576	
当期売上原価		1,258,172		1,286,576	

(注) 1 当社の原価計算は、受託開発においては個別原価計算による実際原価計算であります。

2 自社機器については、総合原価計算による実際原価計算であります。

※3 主な内容は次のとおりであります。

区分	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
通信費	24,750千円	24,245千円
減価償却費	95,498千円	83,068千円

※4 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

区分	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
工具、器具及び備品	△3,699千円	△1,697千円
その他	△39千円	△41千円

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	535,020	537,862
当期変動額		
新株の発行	2,842	—
当期変動額合計	2,842	—
当期末残高	537,862	537,862
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	143,599	143,599
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	143,599	143,599
資本剰余金合計		
当期首残高	143,599	143,599
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	143,599	143,599
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	322,445	287,460
当期変動額		
剰余金の配当	△17,009	—
当期純損失(△)	△17,975	△39,037
当期変動額合計	△34,985	△39,037
当期末残高	287,460	248,423
利益剰余金合計		
当期首残高	322,445	287,460
当期変動額		
剰余金の配当	△17,009	—
当期純損失(△)	△17,975	△39,037
当期変動額合計	△34,985	△39,037
当期末残高	287,460	248,423
自己株式		
当期首残高	△169,002	△248,239
当期変動額		
自己株式の取得	△79,237	—
当期変動額合計	△79,237	—
当期末残高	△248,239	△248,239
株主資本合計		
当期首残高	832,062	720,682
当期変動額		
新株の発行	2,842	—
剰余金の配当	△17,009	—
当期純損失(△)	△17,975	△39,037
自己株式の取得	△79,237	—
当期変動額合計	△111,379	△39,037
当期末残高	720,682	681,645

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△70	△66
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	61
当期変動額合計	3	61
当期末残高	△66	△5
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△70	△66
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	61
当期変動額合計	3	61
当期末残高	△66	△5
純資産合計		
当期首残高	831,991	720,615
当期変動額		
新株の発行	2,842	—
剰余金の配当	△17,009	—
当期純損失（△）	△17,975	△39,037
自己株式の取得	△79,237	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	61
当期変動額合計	△111,376	△38,975
当期末残高	720,615	681,640

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	10,389	△46,831
減価償却費	102,232	86,383
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	14,903	5,066
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,149	544
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	4,152	2,637
受取利息及び受取配当金	△182	△96
支払利息	12,698	11,535
売上債権の増減額 (△は増加)	20,077	62,405
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△41,567	△33,942
仕入債務の増減額 (△は減少)	△84,797	29,663
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△6,595	5,308
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	7,194	△20,046
その他	4,278	2,204
小計	40,635	104,833
利息及び配当金の受取額	182	96
利息の支払額	△11,468	△10,446
法人税等の支払額	△13,769	△17,178
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,579	77,305
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△11,036	△26,446
無形固定資産の取得による支出	△5,000	△75,909
定期預金の預入による支出	△7,400	△6,000
定期預金の払戻による収入	25,200	—
敷金及び保証金の差入による支出	△18,002	△83
敷金及び保証金の回収による収入	2,265	210
その他	△5,045	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,018	△108,224
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,668,000	1,850,000
短期借入金の返済による支出	△1,656,000	△1,800,000
長期借入金の返済による支出	—	△100,000
社債の発行による収入	—	69,223
社債の償還による支出	△60,000	△67,000
株式の発行による収入	2,842	—
自己株式の取得による支出	△79,237	—
配当金の支払額	△16,817	△147
財務活動によるキャッシュ・フロー	△141,212	△47,923
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△144,650	△78,842
現金及び現金同等物の期首残高	644,871	500,220
現金及び現金同等物の期末残高	※ 500,220	※ 421,377

(5) 財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）及び工具、器具及び備品のうち金型については定額法）を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物・・・・・・・・・・10～20年

工具、器具及び備品・・2～8年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売数量に基づく償却額と残存有効期間（3年以内）に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を当期償却額としております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり、定額法により償却しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務見込額（自己都合退職による要支給額より年金資産額を控除した額）を計上しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

※1. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行（前事業年度は取引銀行5行）と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
当座貸越極度額の総額	1,200,000千円	1,350,000千円
借入実行残高	561,000	611,000
差引額	639,000	739,000

2. 保証債務

前事業年度（平成24年9月30日）

システム機器の販売顧客のリース債務16,863千円について、債務保証を行っております。

当事業年度（平成25年9月30日）

システム機器の販売顧客のリース債務14,739千円について、債務保証を行っております。

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注1)	24,991	147	—	25,138
自己株式				
普通株式(注2)	2,312	1,003	—	3,315

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加147株は、新株予約権の権利行使にともなう新株の発行によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加1,003株は、取締役会決議による自己株式の取得によるものであります。

(2) 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
			当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	171	—	171	—	—

(注) 当事業年度において減少している171株は、147株は新株予約権の行使によるもので、24株は新株予約権の行使期間満了にともない権利が消滅したものであります。

(3) 配当に関する事項

① 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年12月27日 定時株主総会	普通株式	17,009	750	平成23年9月30日	平成23年12月28日

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの該当事項はありません。

当事業年度（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注1）	25,138	—	—	25,138
自己株式				
普通株式（注2）	3,315	—	—	3,315

(2) 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

(3) 配当に関する事項

①配当金支払額

該当事項はありません。

②基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	522,720千円	449,877千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△22,500	△28,500
現金及び現金同等物	500,220	421,377

(リース取引関係)

前事業年度 (平成24年 9月30日)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

該当事項はありません。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	8,741	6,516	2,225
合計	8,741	6,516	2,225

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 9月30日)
未経過リース料期末残高相当額	
1年内	1,028
1年超	1,717
合計	2,745

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年10月 1日 至 平成24年 9月30日)
支払リース料	1,974
減価償却費相当額	1,749
支払利息相当額	146

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年9月30日)
1年内	349
1年超	792
合計	1,142

当事業年度（平成25年9月30日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(金融商品関係)

前事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）及び当事業年度（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度（平成24年9月30日）及び当事業年度（平成25年9月30日）

決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）及び当事業年度（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

前事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）及び当事業年度（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

関連会社がないため、該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は出資 金 (千円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有(被 所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (個人) 及びその 近親者が 議決権の 過半数を 所有して いる会社 等	アトラスア ンドカンパ ニー株式 会社	東京都 渋谷区	10,000	飲食店等 の経営	なし	役務の提供	A S Pサー ビス提供	9,818	売掛金 前受金	1,133 140
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社等	ナチュ ラルグ リーンリ ゾー ト株式 会社	山口県 山陽小 野田 市	1,000	ホテル業 、 不動産 賃貸及 び管理 業	なし	建物の賃借	家賃	4,030	敷金及び 保証金 前払費用	7,200 690
						ホテル施設 の利用	福利厚生費	411	—	—
						役務の提供	A S Pサー ビス提供	289	売掛金	24

当事業年度（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は出資 金 (千円)	事業の 内容又 は職業	議決権等 の所有（被 所有）割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (個人) 及びその 近親者が 議決権の 過半数を 所有して いる会社 等	アトラスア ンドカンパ ニー株式 会社	東京都 渋谷区	10,000	飲食店等 の経営	なし	役務の提供	A S Pサー ビス提 供	8,930	売掛金 前受金	22 144
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社等	ナチュ ラルグ リー ンリゾ ート株 式会社	山口県 山陽小 野田 市	1,000	ホテル業 、不動 産賃貸 及び管 理業	なし	建物の賃借	家賃	18,720	敷金及び 保証金 前払費用	7,200 1,795
						ホテル施設 の利用	福利厚生費 その他一般 管理費	1,800 413	—	—
						役務の提供	A S Pサー ビス提 供	296	売掛金	7

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. アトラスアンドカンパニー株式会社（主要株主である鎌田英哉氏が100%を所有（間接所有含む））との取引 A S Pサービス提供に関しては、価格その他の取引条件は当社と関連を有しない第三者と同様の条件によっております。
3. ナチュラルグリーンリゾート株式会社（当社代表取締役社長である田村隆盛の近親者が100%を所有）との取引
建物の賃借料に関しては、不動産鑑定士の評価額等を参考に決定しております。
ホテル施設の利用に関しては、一般の取引条件と同様に決定しております。
A S Pサービス提供に関しては、価格その他の取引条件は当社と関連を有しない第三者と同様の条件によっております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
繰延税金資産		
賞与引当金損金算入限度超過額	6,144千円	6,386千円
未払事業税否認	958	—
貸倒引当金損金算入限度超過額	16,010	12,653
退職給付引当金損金算入限度超過額	5,938	6,857
減価償却費損金算入限度超過額	13,561	12,707
減損損失損金算入限度超過額	119	114
棚卸資産評価損損金算入限度超過額	11,248	11,413
その他有価証券評価差額金	35	—
繰越欠損金	—	14,231
その他	635	1,275
繰延税金資産小計	54,652	65,640
評価性引当額	△10,145	△11,007
繰延税金資産合計	44,507	54,632
繰延税金資産の純額	44,507	54,632

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
法定実効税率	40.0%	税引前当期純損失であるため記載を省略しております。
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	66.6	
住民税均等割等	13.1	
評価性引当額の増減	112.1	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	38.8	
その他	2.4	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	273.0	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度と中小企業退職金共済制度を併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成24年9月30日)	当事業年度 (平成25年9月30日)
(1) 退職給付債務 (千円)	△91,672	△103,746
(2) 年金資産 (千円)	74,632	84,069
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2) (千円)	△17,039	△19,677
(4) 未認識数理計算上の差異 (千円)	—	—
(5) 未認識過去勤務債務 (債務の減額) (千円)	—	—
(6) 貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5) (千円)	△17,039	△19,677
(7) 前払年金費用 (千円)	—	—
(8) 退職給付引当金(6) - (7) (千円)	△17,039	△19,677

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
退職給付費用 (千円)		
(1) 勤務費用 (千円)	14,462	13,782
(2) 利息費用 (千円)	—	—
(3) 期待運用収益 (減算) (千円)	—	—
(4) 数理計算上の差異の費用処理額 (千円)	—	—

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
当社は、簡便法を採用しておりますので基礎率等については記載しておりません。	同左

(株式給付制度)

1. 採用している退職給付制度の概要

従業員の新しい福利厚生サービスの一環として「株式給付信託 (J-ESOP)」を導入しております。

2. 退職給付費用に関する事項

株式給付規程に基づく期末勤続ポイント 1,836千円

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日) 及び当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

前事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)及び当事業年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)及び当事業年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)及び当事業年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)及び当事業年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

当社は、ASPサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)		当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
1株当たり純資産額	330円21銭	1株当たり純資産額	312円35銭
1株当たり当期純損失金額	8円20銭	1株当たり当期純損失金額	17円89銭

(注) 1. 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純損失金額を算定しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失金額(千円)	17,975	39,037
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る又は当期純損失金額(千円)	17,975	39,037
期中平均株式数(株)	2,192,900	2,182,300
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

(株式分割及び単元株制度の採用について)

当社は、平成25年8月9日開催の取締役会決議に基づき、平成25年10月1日付で以下のとおり株式分割の実施及び単元株制度の採用を行っております。

1. 株式分割の目的

当社は、平成19年11月27日に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、平成25年10月1日を効力発生日として、当社普通株式を1株につき100株の割合での株式分割と、100株を1単元とする単元株制度を採用いたします。

2. 株式分割の方法

平成25年9月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき100株の割合をもって分割いたします。

3. 分割により増加する株式数

①株式分割前の発行済株式総数	25,138株
②今回の分割により増加する株式数	2,488,662株
③株式分割後の発行済株式総数	2,513,800株
④株式分割後の発行可能株式総数	9,170,400株

4. 株式分割の日程

①基準日公告日	平成25年9月13日
②基準日	平成25年9月30日
③効力発生日	平成25年10月1日

5. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	当事業年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
1株当たり当期純損失金額	8円20銭	17円89銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. その他

(1) 役員の変動

①代表取締役の変動

該当事項はありません。

②その他の役員の変動

該当事項はありません。

(2) その他

該当事項はありません。